



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

かながわライフサポート事業開始から2年 —社会福祉法人の可能性を改めて感じる—	・・・1・2・3面
新役員紹介	・・・3面
活動報告 —高齢研究委員会視察研修—	・・・4面
—平成27年度第1回総会・合同研修会—	・・・4・5・6面
お知らせ —今後の予定・新入会員紹介・会員状況—	・・・6面

かながわライフサポート事業開始から2年 — 社会福祉法人の可能性を改めて感じる —

◇ 着実な歩みを目指して

県内の社会福祉法人のみなさまと連携して生活に困っている人への支援を行っていく事業として「かながわライフサポート事業」が始まってから、平成27年8月で丸2年が経ちました。当初は29法人でスタートしましたが、現在では60法人（平成27年8月末現在）になりました。実際に困っている人のもとへ出向き、寄り添いながら、その人なりの自立のサポートするコミュニティソーシャルワーカー（CSW）も約130人となりました。具体的な支援件数も平成25年度は55件、平成26年度は130件と着実にその数も増え、自立をすることで支援を終結した件数も、平成25年度は29件、平成26年度は93件となっています。飛躍的に参加法人数も件数も増えていっているということはありませんが、着実に県内に住む方々へのひとつの資源として、その役割を果たそうと、日夜奔走しているところです。

◇ 社会福祉法人ならではの支援

事例のひとつで、家賃を滞納していて執拗な取り立てにあっている方の支援がありました。毎晩、家に来ては玄関のドアをドンドンと叩く日が続きました。相談者の方は、気持ちも滅入ってしまい、昼間働きに出ても、そのことが気になって仕事にも身が入らない状況にありました。その時にライフサポート事業に相談いただき、管理会社との交渉が始まりました。何度かの電話でのやりとりを経て、相談者も交え、実際にお会いしてこれからについて話し合うことになりました。家のドアをドンドン叩くような所だったので、みんな緊



CSW養成研修風景

張しながら、交渉に臨みました。施設の会議室をお借りしました。その時です。施設のスタッフの方が施設での食事を一食分、多く用意をしてくれて相談者に提供してくれたのです。これから交渉に臨む相談者にとって、それは施設の方がしてくれた配慮でした。交渉が無事に終わり、これからの生活にも目途がたったとき、相談者の方がポツリと漏らし、そして涙を流されました。「こんな温かい味噌汁をいただいたのは、久しぶりです。」と。

同じ食事のことで、こんな事例もありました。ライフサポート事業では、食事のサポートをする機会は多くありますが、一緒に買い物に行っておこなう経済的支援ではなく、施設に朝ごはんを食べに来てもらうという支援を考えられた法人もありました。生活に困っている人の中には、孤立状態にある方も多く、なかなか人と触れ合う機会が無い方もいます。ここ数カ月、鳥との会話しかしていないと言われる方もいます。この支援方法には、社会参加のための第一歩として、可能性を感じました。

この二つの事例以外にも地域に社会福祉施設や事業所というハードと、そこに働く温かいハートを持ったスタッフがいる社会福祉法人ならではの支援は数々のエピソードがあります。本当に感謝するばかりです。

◇ 働くことをサポートする「かながわジョブサポート」

ライフサポート事業には、何らかの理由で働くことができず、生活に困っている状況になっている方々からの相談も多く挙がっています。疾病や障がい、高齢者や子育て中の方、短期労働や派遣労働、不当就労から抜け出せない悪循環など、働きにくい理由も様々です。しかし、働き方や仕事内容を工夫することで、活躍できるのではないかと思う人たちもたくさんいます。このような就労に困難を持つ人たちがチャレンジできる多様な就労の場の創出を目指す取り組みが「かながわジョブサポート」です。

かながわジョブサポートとは、とりわけ安定的に働くことが難しい人も、社会の中でその人なりに働くことが出来る場を創ることです。現在、各施設・事業所で行っている業務を見直し、整理して、比較的専門性を必要としない業務を再構築することで、就労に困難を抱えた人でも出来る業務を生み出すことができます。ぜひ、かながわジョブサポートにも関心を寄せていただければと思います。

◇ その他にもできること

現在、会議や研修を行うときに、参加者の方々に呼びかけている取り組みとして「フードドライブ」というものがあります。これは、各ご家庭に眠っている、例えばお中元でもらった素麺やお菓子などを、



フードドライブで集まった食品等

会議の際に一品だけ持ち寄っていただく運動です。多いときには段ボール5～6箱ぐらい集まるときもあります。これらをライフサポート事業で相談者宅を訪問するとき、パッケージにしてお持ちしています。お子さんのランドセルやピアニカが必要な時もありました。これ以外にも、ちょっとしたことで出来ることは生まれてきます。ぜひ、みなさんの知恵やアイデアで、社会福祉法人ならではの取組みを創っていきましょう。

◇ これからの社会福祉法人

わたしたち社会福祉法人の経営は、これからますます多岐にわたり、そして高度化していくことが予想できます。また、それに加えて社会に必要な存在として、市民に支持される存在として、地域の中で地道な実践を重ね、継続的に地域の資源となるような姿を必要とされています。ここで、お伝えした「かながわライフサポート事業」、そして、それから派生しているいくつかの取り組みは、これからも増えていくと思います。参加できるところから、まずは関心を持って、一緒になって「オールかながわ」の取り組みを、市民の方々、関係者の方々、次につながってくる全国の方々にお伝えできたらと思います。

【神奈川県社会福祉協議会 ライフサポート担当 大関】

新 役 員 紹 介

平成 27 年 3 月 31 日をもって役員の 2 年間の任期が満了となり、二人の役員の交代がありました。新たに選任された役員を紹介いたします。



副会長（研修担当）

井田 友花 （三神会）

『今期より副会長を務めさせて頂くこととなりました、三神会の井田と申します。浅学非才の私ですが、本会の発展の一助となれる様に邁進する所存です。ご指導、ご協力の程、よろしくお願い致します。』



監 事

森 弘樹 （富士美）

『会員の皆様に寄与できますように、また、当会の発展に貢献できますように、努めて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。』

平成 27 年 4 月 1 日からの他の役員についてはホームページをご覧ください。

退任された高橋輝彦元副会長、関水貴浩監事、長い間、会の発展のためご尽力いただきありがとうございました。今後のご活躍と所属法人の発展をお祈りいたします。

【総務・広報委員 福原高洋】

活 動 報 告

高齢研究委員会視察研修

6月5日(金) 高齢研究委員会では、宝塚音楽歌劇団視察研修を企画・開催いたしました。これは、ややもすれば「遊び」のように思われる研修だと思います。しかし、誤解を恐れずに言えば、私たち社会福祉法人経営青年会の活動というものは、「遊び」が必要だと思っています。その理由は、私たちが商品を扱うような仕事ではなく、ヒトの“生活”を彩る仕事であるということに他なりません。介護の仕事は時に、絵と一緒に描いたり、生け花をしたり、紙芝居をしてみたり、はたまた節分の鬼に扮してみたり、サンタに扮してみたり...と「遊び」のような側面を持つ仕事です。しかし時に介護は「死」に向き合う、遊びとは程遠い「大真面目」な仕事です。その2つのスイッチをシーン毎に切り替え真摯に向きあう。それが私たちの重要な要素です。

1914年の第一回公演より今日まで、ファン、スタッフ等々、数多くの人々と共に積み重ねられてきた伝統の“継承と繁栄”。視察当日に私たちの目の前に飛び込んできたのは、圧巻のステージでした。この日本のエンターテイメントがなぜ今日まで継承と繁栄をしてきたのか？それは、歌劇団の努力も勿論の事、それを支えるファン達の絶大なる支持があつてこそです。これを日本の介護が措置から契約に替わり、それぞれの法人のファンを獲得するという経営的視点に置き換えるならば、地域の方々からの支持と支援は、社会福祉の伝統と、それに留まらず革新を創造し続けることと同じであると感じました。そして私たちに課せられた公益性と経営判断をエンターテイメントから学ぶことは、青年経営者としての感性を磨き、見聞を深めることに繋がりました。

花組現役メンバー(※亜蓮冬馬)さんを交えた公演後の情報交換会では、普段聞けない苦勞と苦惱、そしてやりがいをお伺いすることが出来ました。華やかな表側の世界と、どの世界にも存在する裏側の大変な現実。しかしプロの仕事は裏の部分を外に居る私たちに感じさせる事は絶対にありません。私たちが大変な部分だけを切り取られるのではなく、前述のような遊びの要素をいかに真面目に、魅力的に映すかというスタンスが求められるのかもしれませんが。

このように、経営青年会では介護に直結する学びのみならず、各々の頭と心でそのモノゴトの本質をひもとく学びの場を、これからも継続的に企画していきたいと考えております。

【高齢研究委員 馬場拓也】

平成27年度第1回総会

6月17日(火)13時からホテルキャメロットジャパンにて、第1回総会が開催されました。最初に西山会長から今後の社会福祉法人の在り方、情報公開による透明性の維持、神奈川社会福祉法人経営青年会の活性化についてのあいさつがあり、次の議案が提案されました。

- 第 1 号議案 平成 26 年度事業報告（案）について
- 第 2 号議案 平成 26 年度収支決算（案）について
- 第 3 号議案 その他

審議の結果、すべての議案が承認されました。

議事終了後、平成 26 年度をもって卒会された方の紹介を行いました。



会長あいさつ



総会風景

対象者は次の方たちです。

渡井克正 様 （泉正会）

鈴木八郎 様 （久良岐母子福祉会）

長い間、会の発展のためご尽力いただきありがとうございました。
今後のご活躍と所属法人の発展をお祈りいたします。

最後に新入会員の紹介を行い、13 時 30 分に終了いたしました。

【総務・広報委員 福原高洋】

合同研修会

平成 27 年度の合同研修会では RUSHJAPAN 株式会社代表取締役の齊藤多可志様をお招きし、「福祉業界の宝探し」というテーマでご講演いただきました。

世界で初めて宝探しをビジネスにした齊藤社長ならではの講演タイトルです。

「自分の仕事が好きですか？好きな方は挙手してください。自分の仕事を好きになること、仕事の目的を明確にすることが成功の原点です！」との熱いメッセージからお話が始まりました。

○ 紆余曲折と転機

現在でこそ年商 5 億円・会員 15 万人まで成長したものの、かつては 10 年間目標達成しない会社として累積 8000 万の負債を抱え、退職者も相次ぎ 2010 年には 25 名から 14 名まで減るなど、楽しくない・病気蔓延・ミス多発が嘆かれる社風であったといえます。悩みとストレスのあまり、鬱病と診断されるまでになりました。

転機となったのは、刺激反応理論、選択理論などとの出会い。致命的な 7 つの習慣「批判する・責める・罰する・脅す・文句を言う・目先の褒美で釣る・ガミガミ言う」を反省し、「人は外から変えられない」という思想のもと思いやりを示す 7 つの習慣「傾聴する・支援する・励ます・尊敬する・信頼する・受容する・意見の違いを交渉する」を実践することで、社風の改善に成功。また 5 つの基本的欲求「生存の欲求・愛と所属の欲求・力の欲求・自由の欲求・楽しみの欲求」にも着目し、従業員への働きかけ方を変えました。



講演する齊藤多可志氏

何のために誰のために自分は成功しなければならないのか？それを振り返ったとき、自分と関わる人、特に身近な人を幸せにするため（喜びで包むため）だと気づきました。社員を幸せにする会社を標語に揚げ、社員は何を求めているのか？社員が本当に求めているものは？を突き詰めた結果として「5 万円

付きの9日連続休暇・社員アンケートと明確な回答・健康促進計画・ランチ補助金・給与制度制定・評価制度制定・年2回ボーナス確約」などを実施。

従業員が年間良かったことベスト3の中に「社員が幸せになるよう考えて、実行してくれる社長でいてくれたこと」をあげてくれて涙したそうです。

○ 私たちの宝島

「ホーソンの実験」によると、照明を明るくした→生産効率が上がった→照明を暗くした→生産効率は落ちなかった、という結果が出ています。これは、自分の仕事が注目されている、自分は気にかけてもらっているということが生産性に大きな影響を与える証明だそうです。社員のコミュニケーションに投資することで、会社に愛されていると感じます。皆で一つの成果を楽しみながら手にすることで従業員同士の自発的な協同を促せる。また仕事では省みる事をしない従業員も、遊びの企画を通して省みることを学ぶものです。最後に齊藤代表は、目的を持つことと、願望に対するこだわりこそが成功の原点であるとして講演を括りました。 【研修委員 栗田義晃】

お知らせ

今後の予定

予定されている研修会や大会です。

開催日	場所等	テーマ等
平成27年10月21～22日	宮ノ下富士屋ホテル	宿泊集中セミナー (仮)箱根火山活動の影響と地域連携の実態

新入会員紹介

新たに入会された新会員を紹介いたします。

松本あゆみ 様 (愛生福祉会) 佐々木 淳 様 (峰延会)
小川 崇 様 (峰延会) 中村 豪 様 (ユアアイ二十一) 広嶋 稔之 様 (照陽会)
澤野 亮介 様 (光友会) 大畑 直 様 (伸生会) 井田 渉 様 (三神会)
磯野 一途 様 (あららぎ福祉会) 運道 弥生 様 (弥生会)

会員状況

会員数 100名 法人数 72法人 (平成27年8月末日現在)

※ ついに会員100名の大台にのりました。＼(^ ^)／

編集後記

西山会長が就任時から目標としていた会員数100名をついに達成しました。厳しい時代を迎えた社会福祉法人にとって多くの仲間が集い、そして情報交換できることは大変素晴らしいことだと思います。多くの会員が参加し、時代に合った実りある研修や法人運営に役立つ情報交換ができるよう今後とも努めていきたいと思っています。その結果、会員数150、200名と増えると良いですね・・・(high-ocean)

発行／神奈川県社会福祉法人経営青年会
連絡先／〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
神奈川県社会福祉会館内
(福)神奈川県社会福祉協議会
福祉サービス推進部ライフサポート担当
電話：045-311-8753
Fax：045-320-4077